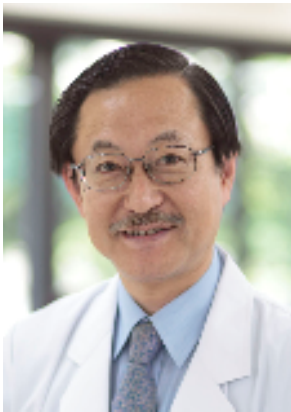


# 超高齢化社会における鍼灸治療 (全人的総合的アプローチ)の役割と可能性

～統合医療による認知症Gold-QPD育成講座の役割～



## 兵頭 明

社団法人老人病研究会

常務理事

学校法人後藤学園

中医学研究所所長

去年の敬老の日に発表された65歳以上の人は2940万人であった。加齢に伴い色々な疾患や症状がでてくるが、それらの中で脳、耳、腰、膝、骨、歯、髪といったキーワードと関係する諸症状は多くの場合、「腎虚」（中医学の概念である「腎」の機能低下）と連動して起こってくると中国伝統医学（中医学）では考えている。また脳血管障害、高血圧症、認知症、難聴、緑内障、骨粗鬆症、誤嚥、排尿トラブル、転倒といった疾患や症状は、「肝腎両虚」（中医学の概念である「肝」と「腎」の機能低下）と連動して起こる場合が多いと考えられている。

こういった疾患や症状を複数もっていると、ADL（日常生活動作）やQOL（生活の質）にも影響が出てくるようになる。高齢者のかかえる多くの疾患や症状に対して、これからは疾患ごととか症状ごとに個別に対応するだけでなく、さらに全人的で総合的なアプローチが必要とされることであろう。具体的には、「腎虚」の改善をはかったり、「肝腎両虚」の改善をはかることにより、上記の多くの疾患や症状に対して、全人的で総合的なアプローチを同時に行うことが可能となるのである。

社団法人老人病研究会は、このような超高齢化時代の医療的・社会的ニーズにもとづき、高齢化社会の大きな課題である認知症と高齢者不定愁訴の治療を視野に入れ、高齢者に対して全人的・総合的なアプローチができる認知症専門鍼灸師の育成講座を開講することとなった。

## 一、認知症に対する鍼灸治療の可能性

認知症の問題についても認知機能の問題だけを見るのではなく、中医学の考え方を導入することにより全人的な視点にたった統合医療による取り組みが、ここにスタートすることとなった。認知症の患者数は2015年には250万人、2020年には300万人に達するとされている。この課題に対して、健康長寿の考え方をベースとした統合医療による認知症の予防、認知症の中核症状の改善や周辺症状の緩和を目的とした医療連携、地域連携、施設連携、家族連携の中での鍼灸治療の取り組みは、世界初の試みとなるであろう。

## 二、認知症 Gold-QPD 育成講座の役割

社団法人老人病研究会が育成しようとする認知症専門鍼灸師は、認知症に対する高度な西洋医学的知識を備え、さらに中医学の考え方を共有し、認知症患者や高齢者への接遇介護法を習得し、所定の鍼灸技能（韓景猷式認知症鍼灸治療）を有する専門鍼灸師である。具体的にはブロンズコース、シルバーコース、ゴールドコースの3段階の研修プログラ

ムを実施し、認知症 Gold-QPD 育成講座認定評価委員会が指導監督することにより、優秀な認知症専門鍼灸師の育成を目的としている。

### 三、全国のニーズに応える方策

全国の認知症の人と家族のニーズに応えるためには、全国展開を視野に入れて、本育成講座シルバーコース、ゴールドコースの臨床研修を全国規模で行える環境づくりが必要となる。そこでまず全国の鍼灸学校のうち 21 校の臨床施設を本育成講座の臨床研修拠点とするために、サブリーダー育成講座（ブロンズコース）を去年の 10 月に開催し、今年 1 月と 2 月にサブリーダー育成講座（シルバーコース）を開催した。高齢者医療に対して高い志をもつ 21 校の教員がゴールドコースを修了して認知症 Gold-QPD 資格の認定を取得し、その所属校が本育成講座の認定研修施設となることにより、高い志をもつ全国の多くの鍼灸師が、本育成講座に参加しやすい環境づくりが目下推し進められている。

また社団法人老人病研究会としては、多くの高齢者入居施設、グループホーム、病院等との連携を強化することにより、本育成講座の参加者が充実した実地研修を行えるよう全国規模での研修協力施設の拡充をはかる準備を進めている。

### 四、脳血管障害、脳血管性認知症に対する鍼灸治療の役割

2008 年版人口動態統計によると、脳血管障害の患者数は約 137 万人、亡くなった人は 12 万 6 千人（死因第 3 位）とされている。また厚生労働省研究班の報告では 2020 年の脳血管障害の患者数は約 287 万人と予測している。中国天津で開発された「醒脳開竅法」という鍼灸治療システムは、脳血管障害の急性期から現代医療と併用することにより、早期回復、早期退院を可能ならしめているだけでなく、後遺症の軽減、ADL の改善、QOL の向上にも貢献している。また現在中国では、多くの医療機関が脳血管性認知症に対して「醒脳開竅法」を応用することにより、中核症状の改善と ADL の改善面でかなり高い効果を収めている。本育成講座で習得させる鍼灸技能は、脳血管障害後遺症の改善および脳血管性認知症の予防と治療面でも一定の効果を発揮できることが期待される。

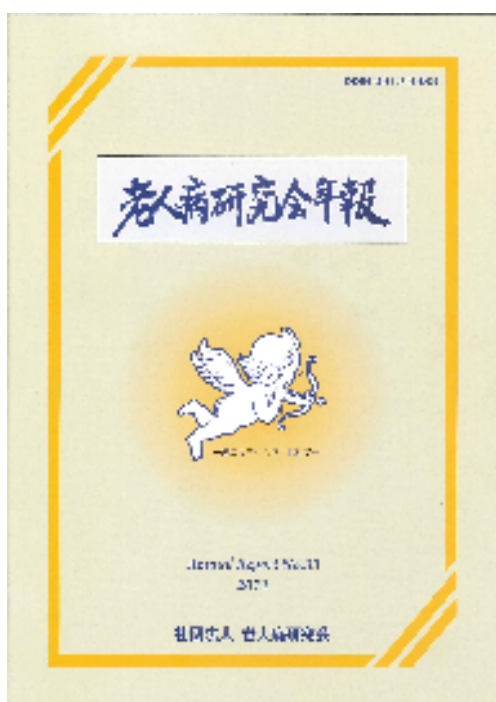
### 五、認知症に対する鍼灸治療研究の試み

認知症に対して統合医療としての鍼灸治療の有用性、必要性、重要性を検証するために、以下の研究を行う予定である。

認知症の中核症状と周辺症状の予防と治療にどれだけ役立つか、西洋医学に限定した治療法に比しどれだけ有用性があるか、についてそれぞれの症状に対する効果エビデンスをスコア化し、それに基づき認知症における鍼灸治療の有用性、必要性、重要性を検証する。

## 六、近未来の展望

種々の連携をベースとすることにより、認知症にかぎらず、高齢者のかかえる不定愁訴全般に対しても、全人的・総合的なアプローチができる Gold-QPD 認定鍼灸師は、近い将来において広く高齢者医療の中に受け入れられることになるであろう。そしてさらに全国に分布する高齢者入居施設においても、必ず一人以上の Gold-QPD 認定鍼灸師が配備されるようになることが期待される。高齢者医療に対する日本型統合医療を世界に発信できる日も、そう遠いものではないように思われる。



社団法人老人病研究会 年報 No33 号  
(2011 年版)